

## 自分たちの住むまちのこと やっぱり気になりますよね！

映画やドラマ、舞台上で活躍中の大野拓朗さんに、コロナ禍の海外経験で感じたことや、ご自身が育ったさいたま市について、お話しいただきました。

# 大野拓朗さん

おおの・たくろう

1988年東京都生まれ、さいたま市で育つ。2009年「第25回ミスター立教」選出をきっかけに、2010年の映画『インシテミル〜7日間のデス・ゲーム〜』でデビュー。大河ドラマ『花燃ゆ』『西郷どん』、連続テレビ小説『とと姉ちゃん』『わろてんか』などに出演。『ラストアタック』『ペビーシッター・ギン!』主演のほか、『Let's 天才てれびくん』ではMCを務めるなど、映画やドラマ、舞台、CMなどで幅広く活躍。

— ご出身は東京ですが、さいたま育ちだそうですね。

小学校卒業と同時にさいたま市に引っ越し、上大久保中学校、市立浦和高等学校を卒業して、大学にもさいたま市から通いました。高校生の頃は北浦和駅周辺でよく遊んでいて、食べ放題のお好み焼き屋さんに行ったり、そのあと北浦和公園で2次会（もちろんジューズで笑）って感じでした。なので、青春時代を過ごしたさいたま市にはすごく愛着があります。

デビュー以降は東京で一人暮らしですが、さいたま市での仕事もたびたびあり、桜区の実家にもよく帰ります。芸術劇場の蜷川幸雄さんの舞台にも出させていただきましたし、新都心の映画館で舞台挨拶をさせていただきました時には、学生時代にいつも訪れていた場所でもあり、凱旋したようですよ。くうれしかったです。

— 2019年12月、2020年7月、ニューヨークに語学留学されました。

世界中を飛び回るのが夢だったので、英語が話せずコンプレックスでした。また、30代を迎える頃に身近な方が若くして亡くなり、「人生を大切に、後悔しない生き方をしたい」と強く思ったんです。もっと成長したいと思い、留学を決めました。

渡米3カ月目から、コロナの影響でステイホーム状態となりました。大変でしたが、ロックダウン下のニューヨークの人々からは、どんな環境でも限られた時間を充実させようという強い意志を感じました。

また、ニューヨークでは多くの人が政治に強い関心を持って、自身の意見を言葉にしていたのが印象的です。地下鉄で大統領選挙の応援パフォーマンスを見かけたりと、政治を身近に感じました。

— 本日は感染予防のため、インターネット中継でさいたま市議会を傍聴いただきました。

自分たちの住むまちを、より良くしていきたいという議論ですからね。気になりますし、楽しかったですよ。議員さんの質問に「なるほど、確かにそうだ」と思ったし、

それに対する市の答えにも「そういうことか」と、すごく勉強になりました。画面越しでも議員さんの熱が伝わってきましたが、言葉づかいが難しいと感じる部分もあったので、もう少しわかりやすい表現にしてくれたらいいと思います。

別の日には僕の地元・桜区の開発に関する質問もあるようで、気になっています。どうなるのかすごく知りたい！

市議会では身近なことが議論されているので、「政治には興味がない」「聞いてもわからない」などとあまり難しく考えず、気になる議題を見つけて、気軽に傍聴してみればいいんだとわかりました。ロクマルのように、コンパクトにまとめてくれる広報紙もありますね。文章化したものを読めば、さらに理解が深まると思います。

— 大野さんが思う、さいたま市のいいところ・気になるところは？

田園風景が結構好きで、引っ越した家の目の前で、生まれて初めて水田を見た時はとても感動しました。開発が進んで景観が変わっていくのは少し寂しいですが、地元が発展していくのはうれしいですし、ワクワクしますね。

東京へのアクセスが便利な一方で、電車の通勤ラッシュや道路の渋滞のひどさは、改善してほしいですね。市議会でも、交通の問題は議論されているということなので、ぜひ注目していきたいです。もっとたくさんの方が住みたくなる、より便利なまちにしてほしいと思います。

— 今後のビジョンは？

3月からロサンゼルスに短期留学します。仕事のため一度帰国しますが、その後もう一度渡米し、演劇学校に通ったり、オーディションに挑戦したりする予定です。ゆくゆくは、日米両国で活躍できる俳優になれたらと思っています。

僕は、愛するさいたま市から、世界へ飛び立つべく、人生をかけて挑戦し続けます。そんな大きな挑戦を続ける僕の姿を通して、皆さんに勇気や元気をお届けできればと思います。ぜひとも、応援してもらえたらうれしいです。

愛するさいたま市から  
世界へ飛び立つべく、  
人生をかけて挑戦し続けます。



インターネット議会中継を傍聴する大野さん



大野さんと議長、リモート対談の様子